

第3分科会

アクティブラーニングは、大学に必要なのか？

ファシリテーター：関口 久雄 氏（京都先端科学大学 人文学部 准教授）

報告者：小針 誠 氏（青山学院大学 教育人間科学部 教授）

天野 太郎 氏（同志社女子大学 現代社会学部 教授）

池田 恭浩 氏（京都先端科学大学 人文学部 准教授）

分科会概要：

近年、いわゆる大学の授業が、従来の受動的な座学から、主体的な「アクティブラーニング」へ、と大きく変化し始めている。ただし、それらの改革について、いわゆる大学人たちは、きちんと自分たちの問題として考えたことがあるのだろうか。

たとえば—

喧伝される「学修」を経験すれば、「新しい学力」が身につく、「学ぶ意欲」「生きる力」が高まるのか？

そもそも「誰が」「どんな目的」で為された改革なのか？

そして、いわゆる社会経験が乏しいとされる大学教員たちが、主体的・対話的が求められる現実的な時間を、「容易に」「短時間で」ファシリテートすることが可能なのか？

この分科会では、そのような新しい教育の流れを歴史的に検討し、普遍的で実践的な決して新しくはない教育活動の報告等を通して対峙することによって、大学で学ぶ、とはどういうことなのか、を改めて考えてみる。